一般質問　髙橋浩之　議員

髙橋（たかはし）　浩之（ひろゆき）　議員

問　日々の買い物が困難になっている方が増えているが、通院タクシーを病院利用者がいなくとも買い物等に運行することは出来ないか。

答　現在、通院タクシーは中核病院方面に週3回、置賜総合病院方面に週2回運行している。病院等の受診利用に限らず買い物等の移動手段として利用いただいている。

問　通院タクシーの利用者が非常少ないようだが、広報や町から発信しているウェブ（インターネット）等で利用者の拡大を図る必要があるのではないか。

答　インターネット等での広報は高齢者にとって困難と思われるので電話で対応して頂いている。町営バスや通院タクシーを組みあわせながら利用していただきたい。

▲R5・通院タクシー出発式

問　まちづくり株式会社の移動販売車は買い物難民対策として有効だが、売り上げや利用者の減少など、今後の改善が必要ではないか。

答　移動販売車が利用しやすい方法を、町が会社に協議しながら運行していく。

問　現在、除雪機購入に対して10万円の補助金制度や地区の除雪燃料の補助などあるが、豪雪地帯に住む町民は高齢化も伴い、大きい除雪機の購入を検討する方もいるので、補助金の増額や地区で共有して使える大型の除雪機の購入なども必要ではないか。

答　10万円を限度額とし、除雪機の購入補助金を交付している。大型の除雪機については、目的や運営の仕方を明確にする必要があり、公平感を保つことも踏まえて整理しなければならない。

問　特定公共賃貸住宅が各地区に建築されており、10年以上住んでいる方が希望すれば購入も出来るとの事だが、担い手住宅に準じた譲渡方法は出来ないのか。

答　補助を受けている建物については、補助年限があるうちの払下げは困難である。

【自己チェックシート】

今回は多岐にわたる項目について質問を行いましたが、いずれも各地区に暮らす住民にとって重要な課題であると考えています。

通院タクシーについては、南陽・白石方面に運行する際、病院だけでなくスーパーやホームセンターなどを経由するルートへの見直しも必要ではないでしょうか。

人口減少が進む中でも、町民の皆さんや移住された方々が安心して楽しく暮らせるよう、今後も質問や提案をしてまいります。

問　人口推移や環境に配慮した町づくりは

答　行政と地域が一緒になって取り組んでいく

一般質問　渡部英幸　議員

渡部（わたなべ）　英幸（ひでゆき）　議員

問　町民は近年の物価高の中、特に米が買いたくても買えない現状ですが、行政としてライスセンターを無償で利用している組織に、支援を依頼し、「(仮称) 七ヶ宿町物価高騰支援米として、全世帯に米一俵を配布する政策を早急に実施すべきでないか。

答　今年度のライスセンターの収穫米は販売先が決まっていると伺っている。また、米農家を含めて全戸に配布するのが公平性の観点から言えば馴染むのか疑問が残る。

何が一番いいのか支援の在り方を各課で検討させている。

問　今年のJA仮り渡し価格を2万5千円として、600軒×2万5千円＝1500万円の財源が必要です。町が財政調整基金を取り崩し、担い手住宅2棟を建設しているが、1棟減額した予算を米支援に充てれば十分に足りるのではないか。町民救済に有効なので早急に実施するべきではないか。

問　物価高騰への偏りや忖度のない行政対応は

答　住民対象に重点支援交付金関連事業で対応

答　基本的に支出の対する収入不足の場合は対象になるが、今回のような場合、財政調整基金取り崩すのが良いかは行政として研究しなければならない。

▲米の貯蔵庫に使われる雪室

問　少量の米配布は全国でも確認されているが米一俵の配布支援を行えば、七ヶ宿町、そしての源流米も全国的に有名になるので決して無駄ではないと思うが町長の考えを伺う。

答　テレビなどで米騒動の話が持ちきりだが、これがいつまで続くか分からない。支援の在り方として町民の方々に公平に何にでも使えるものの方が、嬉しいんだと思う。

【自己チェックシート】

町長は公平とよく言いますが、町民が米価の高騰で大変な思いをしている中で「米価騒動は一過性のもの。報道もいずれ落ち着く」という場当たり的な答弁に、トップとして町民の苦痛へ真摯に向き合う政治姿勢が欲しいという大変残念な思いがあった。

行政として町が設置している「ライスセンター」の利用団体などと、町民救済の観点から緊急時の備蓄米確保などの協議も必要と感じたので、多くのみなさんから今後の課題についてお話しを伺いたいと思っています。